



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心 ・ 静聴 ・ 充滿 ・ 献身 ・ 奉仕

〒165-0027 東京都中野区野方 1-55-1 天門教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558
事務局メール・TENMONKYOUKAI70@outlook.jp TEL・03-3385-7491 HP <http://ashram.jp/>

よしなり 横山義孝先生を天に送る

東京聖書学校 連盟理事
牧師 島 隆三



横山義孝先生が去る 4 月 16 日、98 歳 6 か月の生涯を全うして御国に凱旋された。召される 3 日前まで普段通り主日礼拝を守り、エノクのようにさっと天に移された。

横山先生は若い日からアシュラム運動に深く関わり、晩年の 15 年ほどは日本アシュラム連盟の理事長としてアシュラム運動をけん引してこられた。先生のアシュラム運動との出会いは、先生ご自身が折あるごとに何度も語られたが、ご自身の 70 年に及ぶ伝道生涯をまとめて出版された『恩寵溢れる歩み』の中に、「私のアルダスゲート・聖霊のバプテスマ」と題して記しておられるのでご紹介したい。

先生は、横山英男牧師の長男として牧師家庭に育ち、沢村五郎師を招いての戦後最初の聖会で献身に導かれ、神戸神学院（後の関西聖書神学校）に入学された。卒業後、父の牧会する浦和別所教会の担任教師となり、同時に川口市で開拓伝道を開始された。川口駅前での路傍伝道から始めて、川口栄町伝道所を開設し、救われる者が次々に起こされて新会堂も建設し、開拓伝道は順調に進展しているかに見えた。しかし先生ご自身は何か今一つ心に空虚感を覚え、1959 年 2 月に東山荘で開かれた第 3 回日本アシュラムに参加された。

そこでスタンレー・ジョーンズ師に出会い、それが先生のアシュラム運動に関わるきっかけとなった。その時のアシュラムで、先生は大きな霊的インパクトを与えられ、さらに主を求めて、翌 1960 年 3 月 13 日の聖日、礼拝説教をまさに始めようとした時に思わざる聖霊の油注ぎを受け、生けるキリストに出会われた。それは先生の伝道生涯を新しくする聖霊体験であった。「私のアルダスゲート」から一部を紹介すると、

「いつものように説教に入ろうと開口一番語り始めたその時、全身にグッと鈍いショックを覚えた瞬間、私は語る言葉が出てきませんでした。そして斜め上方に目を移しますと、十字架の主イエスご自身が幻の内に立っておられるではありませんか。私は、その瞬間こんな罪深い者を憐れんで、私に霊のみ手で触れて下さった主にただただ感泣するばかりでした。・・・生涯忘れることのできない聖霊体験でした。聖霊による私のペンテコステでした。聖霊による信仰、聖霊による賛美、聖霊によるみ言葉の理解、内からほとぼしり出る感謝と喜び、命と希望、私にとってビジョンに満ちた、新しい宣教へのスタートになったのです。ハレルヤ」と結んでおられる。

先生はアシュラム連盟の理事長として各地のアシュラムを指導してこられたが、特にアシュラムセンターの榎本恵師にも手を差し伸べて、アシュラム運動と一緒に進めていこうと呼びかけた寛大な心の持ち主であった。さらにアシュラム運動のみならず、広く超教派の運動に関わり、日本基督教団に代表される日本のキリスト教界の本流と福音派との懸け橋になることを願っておられた。

私たちも先生の跡を継いでアシュラム運動を大切にして、先生が残されたものをしっかり受け継いでいきたい。

霊想 休まず働かれる神と共に

日本基督教団ホーリネスの群 天門教会
牧師 貴村かたる

「主がエルサレムを堅く立てて、全地に誉を得させられるまで、お休みにならぬようにせよ。」

(イザヤ 62: 7)



私たちの神は、今もなお休まず働いておられる方です。

創世記によれば、神は 6 日間にわたり、光や空、地、植物、魚、動物、そして人間を造られ、7 日目に休まれました。つまり、神は

働きを尊ばれ、その模範を私たちに示されたのです。

この「6 日間働き、7 日目に神と共に休む」というリズム、働きそして休むというサイクルは、私たちの信仰生活の基礎でもあります。けれども神は、創造を終えられた後も決して手を休められたものではありません。イエス様はこう言われました。「わたしの父は今に至るまで働いておられる。だから、わたしも働いている。」(ヨハネ 5:17)

神は今も、私たちの人生に深く関わり、養い、導き、癒してくださっています。私たちの日々の生活の中において、神は御手を動かしておられるのです。

アシュラムでは、「開心の時」として「ニード(必要・課題)」を分かち合い、皆で祈り合う時があります。それは「ですから、あなたがたは癒されるために、互いに罪を言い表わし、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、働くとき大きな力があります」(ヤコブ 5:16) に基づいて互いの重荷を担い合う実践です。

一人で抱えている問題も、ニードとして分かち合われた時は神の御手に信頼する行為であり、祈りの細胞のグループと共にその解決のために祈り続けます。そして祈りが積まれる中で、神の御手が確かに働かれ、導きと癒し、突破口が与えられるのです。次回のアシュラムでその祈りの応答である神の働きが証しされる時、執り成しの祈りの成果を聞きます。ハレルヤ! と言って、神は生きておられるという報告と感謝を分かち合うのです。ニードの確信が深まります。ですから私たちは、神の御手を「休ませてはならない」のです。すなわち、祈り続けることが求められているのです。

また、イエス様は罪のないお方でありながら、私たちのすべての罪をその身に負われ、十字架に

つけられました。ピラトは「この人には罪を見出せない」と言いつつも群衆に押され、十字架刑を宣告しました。しかしこれは単なる人間の判断ではなく、神の救いのご計画の一部でした。

「キリストは、自ら十字架の上で私たちの罪をその身に負われた。…そのむち打たれた傷によって、あなたがたは癒された。」(I ペテロ 2:24) この癒しは、単なる肉体の病の回復ではなく、罪の赦し、悪霊の縛りからの解放、神との関係の回復を意味しています。イエス様は地上で多くの病を癒してくださいました。この救いと癒しの御業は、過去の出来事として終わったのではなく、今も祈りによって働くのです。十字架の力は、今を生きる私たちの人生の現場においても、有効に働いています。

祈りによって動かされたイエス様は地上で数多くの病人を癒され、悪霊を追い出されました。また弟子たちが悪霊に取り憑かれた子どもを癒せなかった時、主は「この類は、祈りと断食によらなければ追い出せない」(マルコ 9:29) と教えられました。

祈りとは、神の御手をこの地上に引き下ろす手段です。断食は、自らの力や義を捨て、神に全面的にすぎる信仰のしるしです。祈りなくして、神の働きは見えてきません。だからこそ、私たちのアシュラムの集会が単なる宗教的形式ではなく、神の力と臨在が現れる立証となるために、祈りが何より大切なのです。

神様は今も、私たちの人生のただ中で、休まず働かれています。その御手が動くためには、祈る者が必要です。イザヤの預言が語るように、「神を休ませるな」とは、祈りを止めてはならないという呼びかけです。

今日も祈りましょう。「神様、どうか力を与えてください。あの方を癒してください。私の家族をも導いてください」と。祈りとは、神の働きをこの地にもたらす信仰の応答です。

私たちもまた、神と共に働く者として、祈りをもって主の御手を動かし、力を受けて歩んでまいりましょう。神は必ず応えてくださいます。アーメン。

日本アシュラムの五大原則

1. キリストへの明け渡しと服従
2. 御言葉への静聴と立証
3. 聖霊の導きと充滿
4. 教会への奉仕と伝道
5. 神の国の体験と献身

立証 カナの婚礼の奇跡

連盟理事 アシュラム誌編集委員

日本ホーリネス教団 池の上キリスト教会 信徒 石井 寛

今から 30 年ほど前、私はバンド形式の音楽を通して福音を語るグループのスタッフとして長年働いていました。日本はもとより海外へも、バンドメンバーを教会や学校、各地へ送り出しました。裏方としての働きには困難や苦労もたくさんありましたが、反面、自分自身への信仰における恵みはとても大きく、その後の教会献身者としての働きにとっても、大きな力となりました。

そのころ、彼らや機材を乗せるための車の老朽化で新しいマイクロバスが必要となりましたが、当時のお金で 500 万円というとてもつもない必要が示されました。しかし、蓄えのない中でどうしたらよいかも分かりませんでした。まずは祈り会を持ち、主に願い祈り、そしてそのことを支援者はじめ多くの方々に知らせました。

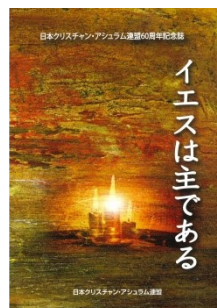
しばらくしてとうとう車は故障し動かなくなりました。知り合いの車屋さんにお借りした車などで急場をつなぎましたが、そのような中、会ったこともないある一人の婦人が事務所を訪ねて下さり、多額の現金をささげてくださったのです。メンバー不在の中、受け取った自分は主のくすしい御業を見、震える手でそのお金を確認しました。そしてそれから目標の額が与えられ新車が購入でき、長い期間を使用させていただき、各地に出向くことができました。



また 10 年前、このアシュラム連盟の働きと教会の仕事に関わりを持たせていただいている中、連盟創立 60 周年の記念事業が発表されました。

その中には記念誌発行、アシュラム記念大会が計画され、近江にあるアシュラムセンターの榎本恵師と共に、アメリカからゲストとしてアン・マシューズ女史を招聘することとなりました。その費用はセンターと折半とし、また記念誌発行、記念大会開催会場費用等 300 万円近くが予定されました。しかし連盟の会計残がわずかであり、新たにその

必要を満たすには支援者、教会に献金を呼びかけなければならないこととなりました。急ぎ依頼文を整え、チラシを作り、また、多くの方々に祈っていただきました。その結果、必要以上に与えられ、ゲストを迎えたアシュラムや礼拝の中での奨励、また、記念誌に至っては川村秀夫兄が膨大な連盟の歴史・年表を作成してくださり、多くの先生方の文章も掲載できました。さらに本のデザイン・レイアウトは専門のデザイナーが、そして何回もの校正にも忠実な校正者が当たってくださいました。



私が連盟の事務局としての働きに関わることになったのは、連盟の働きをされていた教会の前牧師が転任することになった時から始まり、その任が突然自分に課せられたのでした。それまでは牧師の仕事の補助として手伝っていただけだったので、その責任に耐えることができるのか心配でした。しかし、教会役員会もその仕事を認めてくださり、また、他の働き人が支えてくださいました。それから 10 数年にわたって、教会総務引退まで続けることができました。

主イエス様の最初の奇跡である「カナの婚礼」の記述をもう一度噛み締めています。それは主の公生涯の初めに「ご自分の栄光を現された」と書かれている箇所です。「ぶどう酒が無くなりました」とイエスの母は主に訴えました。しかし主は「わたしの時(十字架)はまだ来ていません」とおっしゃるとともに、「水がめに水を満たしなさい」と言われました。そうすると六つの水がめには最上のぶどう酒が満たされたのです。

宣教の働きは、今困難を極めている所が多くあります。働き人が高齢化して若い方々が参加してくれない、活動資金が枯渇し始めている等々...、負を数えてしまいがちな中、私たちは主の恵みを忘れてはいないでしょうか。かつての自分もそうでした。不可能な事や現実的でない事の数を数えたくなる時、主が自分にこれまでなして下さった救いや働きをもう一度思い出すことが今、問われています。

天地万物をお造りになったお方には不可能な事はありません。ぶどう酒が尽きても、それをご存じの主は「水がめに最上のぶどう酒」を満たしてくださいます。

第 3 回戸畑アシュラムの報告

ウェスレアン・ホーリネス教団 戸畑高峰教会

牧師 塩屋優子

第 3 回戸畑アシュラムが、北九州市のウェスレアン・ホーリネス教団戸畑高峰教会で開かれました。参加者は、10 教会から 15 名でした。戸畑という地の利もありますが、本州岡山県などから 3 名の参加者が来られました。以前から続いている九州アシュラムの参加者も加わり新たな出会いがありました。

開心の時には、全員がアシュラムに参加した思いを話し、3~4 人のグループではじっくり御言葉と向き合い、お互いのために祈り合うことができました。昼食の時には、倉敷や尾道から来られた姉妹方が、福音腹話術を披露してくださって、会を盛り上げてくださいました。

福音の時の講師は、連盟副理事長の岡山敦彦先生でした。先生は創世記 12 章 1~9 節（イザヤ 51 章 1 節、使徒言行録 7 章 1~8 節）からアブラハムの生涯と、ご自身の救いの証から開拓伝道のご苦労、そして近年ではコロナに感染し 8 日間の意識不明の状態からの生還の証をしてくださいました。牧会を引退後の現在は、信仰の眼で読み解くシリーズの Zoom 講義を続けておられ活躍されています。

私は、今回のアシュラムで、原点に帰るということ学びました。自分の救いや献身はどこからなのかをもう一度振り返り、初心に戻って主に従っていきたくと願わされました。

戸畑アシュラムも回を重ねるごとに、人数が増えてきて広がりを見せていることや継続して来てくださる方が起こされていることも感謝し、アシュラムのニードを思わされました。イエスは主なり。



アシュラムに初めて参加してみて

日本ホーリネス教団 池の上キリスト教会

信徒 池田秀之

第 56 回城北アシュラムに初めて参加しました。以前からアシュラムについて聞いてはいましたが「自分には関係ない」と決めつけて関心を持っていませんでした。しかし、昨年、受洗の恵みをいただいたことがきっかけで「これからは教会の様々な活動に参加し、礼拝以外でも、神様と交わる機会を増やしてみたい」と思うようになりました。

そのように心が変化する中で城北アシュラムのチラシを見ると、さまざまな教会から兄弟姉妹が集まり、それぞれが抱えるニード(祈りの課題)を分かち、互いに祈り合い、頂いたみことばや導きを分かち合っていくとのことでした。

誇れることではありませんが、悩みなら私にはたくさんあります。無いような顔に見えるかもしれませんが、実際は心配性なのです。心を占めているいちばんのものは、仕事の不安です。コンピュータソフトウェア開発で起業して 15 年になり、時代が目まぐるしく変化する中、数年がかりのプロジェクトが突然中止になったり、困難は何度も乗り越えてきました。しかし、ここへきて自分の身体の変調も重なり、毎日が不安と焦りの中、少しでも導きを得たいとアシュラムに参加してみることにしました。

実際に参加してみると、「相手のニードを祈ること、自分の持っている悩みなどから離れることができる」ことを知りました。各人に同じようにニードがあり、それを思うと、自分にのしかかっていた重荷も軽くなりました。そして自分のような者でも一緒に祈ることができる、と気づかされました。

アシュラムに参加することで、恵みや導きを得、年齢も性別も、そして職業も何もかも違う中で、クリスチャン同士が集まって、父なる神様に他の人のために祈るその喜びが与えられ、不安を生み出していたのは自分自身だと気づかされました。

アシュラム予告

- 横浜岡村教会アシュラム
日時・7月12日(土) 13時
- 第56回九州アシュラム
日時・9月14日(日) 15時
- 場所・鳥栖日韓文化交流センター
助言者・深谷与那人師
- 東京新生教会アシュラム
日時・9月20日(土)
- 助言者・小林則義師
- 浦和別所教会アシュラム
日時・9月21日(土) 13時
- 第60回関東アシュラム
日時・9月22日(月) 24時
- 第17回関東栄光教会ミニ・アシュラム
日時・10月13日(月祝)
- 助言者・横山基生師
- 志木教会アシュラム
日時・2026年1月31日(土) 18時
- 助言者・横山基生師
- その他、予定されているアシュラムを事務局にお知らせください。

編集後記

横山義孝先生を天に送りました。たいへん寂しい思いがつのります。日本クリスチャン・アシュラム連盟の理事会はすでに新体制で動いています。また、アシュラムセンターとの協力も数年前から始まっています。お互いに関係を強めながら、日本のアシュラム運動を進めたく願っています。

各地のアシュラムも積極的に動き出しています。私が責任を負っている九州アシュラムの戸畑アシュラムも軌道に乗りつつあります。各アシュラムがまずニードを分かち合い、祈りの実現に向かって進んでいきましょう。 岡山敦彦

前号219号の訂正
アシュラム誌219号4頁、鍋倉勲牧師の召された日は一月二十三日でした。お詫びし、訂正いたします。